

## 8. 事業実施においてライオンズが直面した課題：

バスを贈るだけであっても多くの困難があった。

まず、現地で関わって頂くライオンズクラブを探すのに苦労した。*My Lion* からD 2 地区のクラブ宛に、何通も文書を送信したが、全く返答が無く、結局エルサルバドル大使を通して、地元の方にサンミゲル LC に手紙を届けて頂くという手法で解決した。*My Lion* では他クラブとコンタクトを取れない現状が分かった。

次に、バスの手配を当初は米国で進めていたが、陸送代、関税のコストを考慮して最終的にエルサルバドル国内で調達することにした。この度はこれで成功したが、経費に運搬費を計上できないことに不便が生じないか？

また、当初の予定では、メンバーがコンチャグア市役所に直接バスを届ける計画でセレモニーの日程も決定していたが、コロナ禍は始まりエルサルバドルの学校もトヨタ代理店も長くロックダウンが続くことになり、全てが予定どおりに進まず事業が遅れた。そのため、次に交付金の申請を待つ事業の承認に支障がでることになった。奉仕活動をスムーズに進めるにはパンデミック時における異例の対応も検討すべきではないかと感じた。

さらに、海外送金でかなりの苦労があった。私たちのライオンズクラブは法人格を持たない団体のため、特に途上国の企業への送金はマネーロンダリングの問題も関係して相当難しいのが現状。この度はエルサルバドルのトヨタ代理店に送金するために、現地の銀行が求めた相当多くの文書をスペイン語で作成し提出したにも関わらず、送金は叶わず、結局、直接コンチャグア市役所の口座へ送金して何とか事が進んだ。サンミゲル LC は財団の登記をしていると聞いたが、法人登録をしていない堺や泉大津のような一般のライオンズクラブが直接途上国へ海外支援をするのはそんなに簡単ではないことが分かった。

法治国家であっても、政権が変わると約束が守られないことが頻繁に発生する。この度もコロナ禍の中、コンチャグア市の市長選挙があり政権が交代したことにより、バスの使途について前市長から新市長へ正しく引き継ぎをしていただかなければならない。途上国への支援を成功させるには、厳しすぎる覚書の締結と、現地でフォローするライオンズクラブの存在が必須だと実感した。

9. 事業の実施に接触関わったライオンズの会員数：

堺ライオンズクラブと泉大津ライオンズクラブの会員の合計数 134 人

10. 交付金を受けて行われた事業の直接の受益者数。この合計数の算出法の説明：

コンチャグア市役所によると、学生の年間の直接受益者数は 4,600 人。

5 カ年の直接受益者数は 23,000 人。

11. 交付金を受けて行われた事業の間接的な受益者数。この合計数の算出法の説明：

市全体が恩恵を受けるため間接受益者を含めるとコンチャグア市の人口 50,000 人に値する。